

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ピリジン臭化水素酸塩〔臭化ピリジニウム；ピリジニウムブロミド〕

改訂日：2024/03/12

SHOWA fine various reagents



## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/03/12  
SDS整理番号 16565350

製品等のコード : 1656-5350、1656-4130、1656-5360、0010-1170、0010-1182

製品等の名称 : ピリジン臭化水素酸塩

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックス など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性  
可燃性固体 : 区分に該当しない  
自然発火性固体 : 区分に該当しない  
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない  
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性  
急性毒性(経口) : 区分4  
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

注意喚起語：警告

危険有害性情報  
飲み込むと有害(経口)  
皮膚刺激  
強い眼刺激

#### 注意書き

##### 【安全対策】

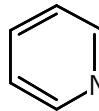
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

##### 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

##### 【保管】

湿気、日光を避け、冷暗所に保管すること。



・HBr

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ピリジン臭化水素酸塩〔臭化ピリジニウム；ピリジニウムブロミド〕

改訂日：2024/03/12

吸湿性があるので、使用後は速やかに密封して保管すること。  
開封後は速やかに使用すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名、製品名	:	ピリジン臭化水素酸塩 (別名) 臭化水素酸ピリジン、臭化ピリジニウム、 ピリジニウムブロミド、アザベンゼン臭化水素酸塩 (英名) Pyridine hydrobromide、 Pyridinium bromide (EC名称)、 Azabenzene hydrobromide、 Pyridine, hydrobromide (1:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	:	ピリジン臭化水素酸塩、98.5%以上(乾燥後)
化学式及び構造式	:	C <sub>5</sub> H <sub>5</sub> N・HBr、(C <sub>5</sub> H <sub>5</sub> NH) Br 構造式は上図参照(1ページ目)
分子量	:	160.01
官報公示整理番号	化審法	(5)-710「ピリジン」 (1)-105「臭化水素酸」 本品はピリジンの付加塩またはオニウム塩であり、 新規化学物質として取り扱わない物質である(既存化学物質扱い)。
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	18820-82-1
EC No.	:	242-600-7
TSCAイベントリ	:	登録済(18820-82-1、ACTIVE)
危険有害成分	:	ピリジン臭化水素酸塩

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	:	眼の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。 直ちに水で口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 必要に応じて医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

【参考 ピリジン〔CAS No.110-86-1〕のデータ】

吸入した場合	:	咳、めまい、頭痛、吐き気、息切れ、意識喪失
皮膚に付着した場合	:	吸収される可能性あり。 発赤、灼熱感
目に入った場合	:	発赤、痛み
飲み込んだ場合	:	腹痛、下痢、嘔吐、脱力感。 他の症状については「吸入」参照。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	:	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する 安全に対処できるならば着火源を除去すること。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。  
 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：  
 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。  
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。  
 風上に留まる。  
 低地から離れる。  
 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
 回収、中和：漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。  
 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。  
 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。  
 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。  
 封じ込め及び浄化の方法・機材：  
 二次災害の防止策：危険でなければ漏れを止める。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。  
 近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。  
 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い  
 技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 粉じん、ミスト、蒸気などの発生を防止する。  
 粉じんの堆積を防ぐ。  
 局所排気・全体換気：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 安全取扱い注意事項：裸火厳禁。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 接触、吸入又は飲み込まない。  
 皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。  
 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。  
 付ける。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。  
 接触回避：炎、火花、湿気、水または高温体との接触を避ける。  
 保管  
 技術的対策：保管場所には換気装置を設置する。  
 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。  
 混触危険物質：強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）  
 保管条件：高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1～15℃）に保管する。  
 光のばく露により変質するおそれがあるため、遮光した容器を使用するか直射日光、室内光を避け、暗所に保管する。  
 吸湿性があるので、使用後は十分に空気を抜き、密封して保管する。  
 開封後は速やかに使用する。  
 品質管理上、夏季気温が上昇して吸湿がすすむと品質劣化し、種々の問題が発生する場合がありますので、保管には十分な配慮が必要である。  
 容器包装材料：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。  
 許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：  
 日本産衛学会：設定されていない。  
 ACGIH：設定されていない。  
 設備対策：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。  
 保護具  
 呼吸器の保護具：呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。  
 手の保護具：保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。  
 眼の保護具：眼の保護具（ゴーグル型保護眼鏡）を着用する。  
 皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣を着用する。

衛生対策 : 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。  
: 取扱い後はよく手を洗う。  
: 取扱い中は飲食、喫煙はしない。  
: 汚染された作業衣は作業場から出さない。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 結晶又は結晶性粉末  
性状 : 白色～類白色  
色 : わずかにアミン臭  
臭い : 酸性（5w/v%水溶液）  
pH : 212～214  
融点 : データなし  
凝固点 : 分解  
沸点 : データなし  
引火点 : 可燃性  
可燃性 : データなし  
爆発範囲 : データなし  
蒸気圧 : データなし  
相対ガス密度（空気 = 1） : データなし  
密度又は相対密度 : データなし  
比重 : データなし  
溶解度 : 水、エタノール、ベンゼンに可溶。  
ジエチルエーテルにほとんど溶けない。  
オクタノール/水分分配係数 : データなし  
発火点 : データなし  
分解温度 : データなし  
粘度 : データなし  
動粘度 : データなし  
粒子特性 : データなし

## GHS分類

可燃性固体 : 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.1（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。  
自然発火性固体 : 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。  
自己発熱性化学品 : 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.2（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。  
水反応可燃性化学品 : 本品は水に可溶であり、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性（反応性・化学的安定性）

: 通常の取扱条件において安定である。  
: 吸湿性があるので、使用後は容器を密閉する。  
: 吸湿すると、ブロッキングがおきる（固まりの発生）。  
: 光により変質するので、遮光保管する。  
: 可燃性であるので、火気に注意する。  
危険有害反応可能性 : 金属（特に銅及び軽金属類）に対し腐食性がある。  
: 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。  
: 強アルカリと混触すると反応する。  
避けるべき条件 : 日光、光、高熱、湿気、火気  
混触危険物質 : 強酸化剤、強アルカリ  
危険有害な分解生成物 : 燃焼で熱分解すると、ハロゲン化物、一酸化炭素、窒素酸化物、二酸化炭素ガスが発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ピリジン塩酸塩と同様に、本品も飲みこむと有害であることから、区分4とした。  
参考【ピリジン塩酸塩のデータ】  
ラット LD50 = 1600mg/kg  
飲み込むと有害（経口）（区分4）  
経皮 分類できない。  
吸入（蒸気） 分類できない。  
吸入（粉じん） 分類できない。  
ただし、粉じんを吸入すると、のど、気管、鼻の粘膜を刺激することがある。  
皮膚腐食性/刺激性 : 本品はEU-CLP, Annex I、でリスク分類されていないが、皮膚刺激が

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ピリジン臭化水素酸塩〔臭化ピリジニウム；ピリジニウムブロミド〕

改訂日：2024/03/12

	あるので、区分2とした。 皮膚刺激（区分2）
眼に対する重篤な損傷/刺激性	本品はEU-CLP, Annex 1、 でリスク分類されていないが、強い眼刺激があるので、区分2 Aとした。 強い眼刺激（区分2A）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	：分類できない。
生殖細胞変異原性	：分類できない。
発がん性	：分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	：分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：分類できない。 本品はEU-CLP, Annex 1、 でリスク分類されていないが、単回ばく露により、呼吸器への刺激が生じることがある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：分類できない。 反復ばく露により、不快感、吐き気、咽頭痛、咳、頭痛が現れることがある。
誤えん有害性	：分類できない。
参考【ピリジン〔CAS No.110-86-1〕の情報】	
急性毒性	： 経口 ラット LD50 = 895mg/kg 飲み込むと有害（経口）（区分4） 経皮 モルモット LD50 = 1,000mg/kg 皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3） 吸入（蒸気） ラット LC50(4時間) = 4450 ppm 吸入すると有害（蒸気）（区分4）
皮膚腐食性	： 吸入（ミスト）分類できない。 4時間適用試験のデータはないが、CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)、ACGIH (7th, 2004)の、ウサギを用いた皮膚刺激性試験結果の記述「強度の損傷」「腐食」から、区分1とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)、ATSDR (2000)、PATTY (4th, 2000)、ACGIH (7th, 2004)のウサギ、モルモットを用いた眼刺激性試験結果において、「強度の損傷」「角膜損傷」「Severe injury」という報告が得られていることから、腐食性を有すると考えられるため、区分1とした。 重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感作性	：分類できない。
皮膚感作性	：分類できない。 CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)のモルモットを用いたLocal Lymph Node Assayにて「陽性」また、ACGIH (7th, 2004)のモルモットを用いた皮膚感作性試験結果にて「陰性」という相反する試験結果が得られていることから、皮膚感作性の有無については、判断しがたく、分類できないとした。
生殖細胞変異原性	：区分に該当しない。 In vivoでは、マウスの骨髄細胞を用いた小核試験、染色体異常試験、マウスの肝臓細胞を用いた不定期DNA合成試験でいずれも陰性であった。
発がん性	：ACGIH (2001)で A 3 に分類されていることから、区分2とした。 発がんのおそれの疑い（区分2）
生殖毒性	：環境省リスク評価第2巻（2003）の記述から、親動物の一般毒性についての記載はないが、睾丸及び副睾丸の萎縮や発情周期の延長が認められていることから、区分2とした。 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：ヒトについては、「肺うっ血と気管支炎」「言語障害を伴う神経系への影響」（CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)）等の記述、実験動物については「麻酔作用」（ACGIH (7th, 2001)）等の記述があることから、標的臓器は呼吸器、神経系と考えられ、麻酔作用を有すると考えられた。なお、呼吸器への影響は経口摂取でみられている。 以上より、分類は区分1（呼吸器、神経系）、区分3（麻酔作用）とした。 呼吸器、神経系の障害（区分1） 眠気またはめまいのおそれ（区分3）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：ヒトについては、「肝臓及び腎臓の重篤な障害」「頭痛、めまい、神経過敏、不眠症、吐き気、嘔吐、肝障害、肝硬変、言語障害を伴う神経系の失調」（CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)）等の記述、実験動物については、「肝臓の炎症」（CERIハザードデータ集 2001-70 (2002)）、「貧血」（NTP TR470 (2000)）等の記述があることから、標的臓器は肝臓、腎臓、神経系、血液系と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイドンス値の範囲でみられた。

以上より分類は区分1（肝臓、腎臓、神経系）、区分2（血液系）とした。  
 長期又は反復ばく露による肝臓、腎臓、神経系の障害（区分1）  
 長期又は反復ばく露による血液系の障害のおそれ（区分2）

誤えん有害性：分類できない。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：分類できない。  
 水に可溶のため、水中を拡散しえる。  
 水中ではピリジンと同様の挙動が予測されるため、下記のピリジンと同様に水生生物に対し有害のおそれがある。

水生環境有害性 長期(慢性)：区分に該当しない。  
 下記のピリジンと同様に急速分解性があり、また、生物蓄積性は低いと推測されるため、区分に該当しないとした。

残留性・分解性：データなし  
 生物蓄積性：データなし  
 土壤中の移動性：データなし  
 オゾン層への有害性：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

### 参考【ピリジン〔CAS No.110-86-1〕の情報】

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata)  
 72時間ErC50 = 0.10 mg/L (環境庁生態影響試験, 1995)  
 水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

水生環境有害性 長期(慢性)：急速分解性がなく (DOCによる分解度：97% (Zahn-Wellens test)、15% (MITI test)、0% (OECD Screen test) (環境省リスク評価第3巻, 2004))、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) での72時間NOEC = 0.01 mg/L (環境庁生態影響試験, 1995、環境省リスク評価第3巻, 2004、NITE 初期リスク評価書, 2007) であることから、区分1とした。  
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

残留性・分解性：低分解性。DOC分解度 = 0 ~ 97%  
 生物蓄積性：データなし  
 土壤中の移動性：データなし  
 オゾン層への有害性：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考) (1) 燃焼法  
 可燃性の溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で、出来るだけ高温（ダイオキシン発生抑制のため850 以上）にて焼却する。

(2) 活性汚泥法  
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）  
 陸上規制：特段の規制なし（非危険物）  
 海上規制：特段の規制なし（非危険物）  
 航空規制：特段の規制なし（非危険物）  
 国連番号：非該当  
 国連分類：非該当  
 品名：非該当  
 海洋汚染物質：非該当

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ピリジン臭化水素酸塩〔臭化ピリジニウム；ピリジニウムブロミド〕

改訂日：2024/03/12

MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類  
： 非該当  
特別の安全対策： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないよ  
うに積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法： 非該当。  
なお、令和6年4月1日施行、令和7年4月1日及び令和8年4月1日  
施行予定の表示・通知対象物の追加物質にも該当しない。  
化審法： 本品はピリジンの付加塩のため、  
旧第2種監視化学物質の該当。  
No.1095 「ピリジン」（官報公示日：2011/04/01）  
毒物及び劇物取締法： 非該当  
消防法： 非該当  
化学物質排出管理促進法（PRTR法）： 非該当〔2023年（R5年）4月1日施行の法改正にも非該当〕  
船舶安全法： 非該当  
航空法： 非該当  
水質汚濁防止法： 生活環境項目（施行令第三条第一項）  
「水素イオン濃度」  
〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの  
5.8以上8.6以下  
・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下  
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）  
「窒素の含有量」  
〔排水基準〕120mg/L 以下（日間平均 60mg/L 以下）  
（注）排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は  
それに従うこと。  
輸出貿易管理令： キャッチオール規制（別表第1の16項）  
HSコード：2933.31  
第29類 有機化学品  
・輸出統計番号（2024年1月版）：2933.31-000  
「複素環式化合物（ヘテロ原子として窒素のみを有するもの  
に限る。）  
- 非縮合ピリジン環（水素添加してあるかないかを問わな  
い。）を有する化合物：ピリジン及びその塩」  
・輸入統計番号（2024年2月1日版）：2933.31-000  
「複素環式化合物（ヘテロ原子として窒素のみを有するもの  
に限る。）  
- 非縮合ピリジン環（水素添加してあるかないかを問わな  
い。）を有する化合物：ピリジン及びその塩」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献：  
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社  
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)  
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編  
化学大辞典 共同出版  
安衛法化学物質 化学工業日報社  
産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版  
化学物質安全性データブック オーム社  
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版  
化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修  
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM  
GHS分類結果データベース nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP  
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分では  
ありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意  
して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成  
しています。